

# 第4回東西融合医療セミナー（要旨）

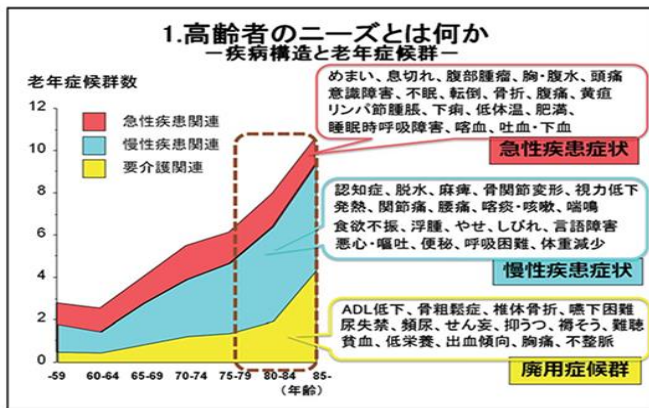
平成28年12月18日（日）午前10時～12時

場所：日本公衆衛生協会（公衛）ビル1F会議室

テーマ：老年症候群の漢方と鍼灸医学

先端的がん治療はときに歪んだ局在性加齢現象を惹起する

## 第I部 老年症候群とは何か（川並）



- \* 高齢者の心身の機能の加齢性衰えにより現れる複合的症状で医療と介護が不可分となる。
- \* がん患者の受ける抗がん剤、放射線照射はときに異常な老年症候群を発症させる。
- \* その治療法は西洋医学で乏しく、患者に我慢を強いる。中医学（漢方、鍼灸）による緩和療法はかなりの確に対処できる。

## 第II部：老年症候群と中医学漢方（鐘 良辰）

長生きは人類の夢で秦の始皇帝は徐福に不老不死の薬探しを命じたといわれる。五臓六腑の衰え特に腎の陰陽の衰弱が老化の原因とされる。腎は泌尿系機能と、生殖力（精力、婦人科）、生命力（臓腑の健康維持）、脳（記憶力、判断力、理解力）そして骨関節、運動神経、耳の聴力などと深い関係がある。腎はまさに老年医学における主要臓器といえる。長寿を期待する鍼灸施術には、五臓を活性化する三焦鍼法（上、中、下焦）がベストの養生となり、それらの総合力が認知症の予防と治療にも深く関与する。

## 第III部：放射線照射療法による極端な老年症候群とその緩和治療（川並）

乳がんの抗がん剤、ホルモン療法、放射線照射後の異常と治療 (DVD; 新報道 2001)  
咽喉がんの放射線療法後の味覚障害とその治療

共催：新宿漢方クリニック、一般社団法人老人病研究会

お問合せ：03-6273-2209、kawanami@nms.ac.jp